



(前編続き)

英語を話すというのはインテリジェンスの証明、有能である事の証明、人格が高位である事の証明、いずれでもありません。

そんな意味不明な尾ヒレがついているのはわが国だけではないでしょうか。

以前にも申し上げましたが外国の人はわが国で英語を話す人に出会うと

「素晴らしい知性の持ち主だ」等とは一切思わず単に

「英語を話す人がいて助かるう (helpful)」

位の事なのです(逆に言うとは彼らは助からずにいるのです)

ですので、自分が勧めているのは翻訳のプロになる事でも外交官になる事でもありません。国内外によらず、たまたま隣にいる人とコミュニケーションを取ってみませんかと言っていただけなのです。

眼を転ずれば我が国全体の日常会話においてさえ外交交渉モドキの駆け引きに満ちた会話が溢れかえっております。そうしたお互いの読みあいや腹の探り合いをする様な生活ばかりしているから恒常的に疲れるのです。

なぜなら全ての会話に利害が絡み、相手全てが自分の事を植民地化しようとする列強諸外国に見え、自らも隙あれば相手を自分の属国にしようとする様な事ばかりしているからです。

どこにも友好関係が存在していないのです。

外国人は異国で同国人に偶然会うと直ぐに声を掛け合いますが、我々は外国で日本人に合うと避ける事が多い気がします。

折角監視の目から解放されたのに、またぞろ外国で外交交渉の真似事をしたくないからで

はないでしょうか。

例えば、交渉後に少しでもいいポジションを得る為の相手の様子見や出方待ち、より直截に言う相手との失策を待ってから切り札を出す「後出しじゃんけん」姿勢。

又は「抜け駆けなしよ」の公平の名の元に強いられる横一線並び。それを破ると途端にどこからともなく同調圧力が掛かか暗黙裡に横一線ラインに引き戻される息苦しくなる様な相互監視生活。

無論男女やご近所間も同様です。

外国で屢々日本人女性を騙されたり犯罪被害に遭ったりするのは、外国人男性が我が国の様に男女が腹の読み合いみたいな事をせずダイレクトな感情表現や要求を出してくるので、女性も隠密潜航潜水艦生活の国内では決して出せなかった本来の欲求がつつい素直に出てカモられるケースが多い様な気がします。

そうした被害を未然に防ぐ為にも常日頃から「様々な経緯を持った人達とのコミュニケーションに慣れておく事」が肝要です。練習もせずにいきなりオリンピック競技場の真ん中に立つ様な無謀な事態を避ける事です。

その為には日頃から以下を意識するといいかもれません。

「言葉を発しない限り何も伝わらない。

相手が声をかけてくれるのや英語でも程度が大学教授レベルになるのを待っていたら人生は終わってしまう」

こうなってしまう一因として

「振るい落とし（＝間違いない探し）専門の厳密教育（就中英語）」

が悪い寄与をした事は否めない様な気が致しております。

（後編へ続く）